

# 2019 年度第 5 回研究例会

2020 年 2 月 12 日（水）16:20~17:50, 於 社会福祉学部棟 301 講義室

## <第 1 報告>

報告者：泉啓講師

題名：「ロールプレイ教育への会話分析の活用可能性——「ふり返り」を重視する先行事例の紹介・検討」

【要旨】 医学や法学、教育学等の分野では、会話分析（Conversation Analysis）やその応用であるビデオ・エスノグラフィを取り入れた臨床的取り組みが増加しつつある。本報告では、こうした他の専門職養成分野の先行的取り組みを紹介及び検討することを通じて、現時点で取り組みが遅れているソーシャルワーク教育への将来的な応用可能性について説明を行っている。会話分析とはサックス、シュグロフらによって 60 年代半ばに誕生した社会学の一分野であり、日常会話や医療、司法、教育等の様々な制度的会話を録音、録画し、データを分析するという営みが行われてきた。この報告では、特にロールプレイ実施後の「ふり返り」に会話分析を活用した取り組みに注目し、授業を充実させる方途について説明している。会話分析を一般学生にも馴染みやすいものとするべく、報告者が本年授業時に心掛けた試行的な取り組みについても紹介を行った。



## <第 2 報告>

報告者：小川晃子教授

題名：「岩手県との地域協働研究」

【要旨】 岩手県立大学の「地域協働研究」ステージⅡは、地域課題を解決するために実施した調査研究の成果を実際に地域に活用する活動を支援するものである。

小川が代表者となっているプロジェクトでは、平成 31 年度に 2 件の採択を受けた。岩手県保健福祉部地域福祉課が提案者の「岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築」と、岩手県政策地域部地域振興室が提案者の「北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり—中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立」である。いずれもこれまで取り組んできた高齢者の能動的な安否確認である「お元気発信」が基盤となっており、前者は AI・IoT 時代に県内でお元気発信を継続するための方策の検討を、後者は高齢化・人口減少が進んでいる北いわてで持続可能な地域コミュニティづくりに寄与するための新たな方策の開発と実践を、それぞれ目的としている。

今年度は、前者では AI スピーカーを活用した見守りの開発を実施した。後者では、岩手町豊岡地区でお元気発信を導入して社会実験を行うとともに、岩泉町安家地区で町の情報通信「ぴーちゃんねっと」のアンケート機能を使ったシステムを開発し実装の準備を進めている。

